

# 令和8年度病害虫発生予察注意報第3号

令和8年6月2日  
愛知 県

作物名：果樹全般（ウメ、モモ、ナシ、ブドウ、カキ等）

病害虫名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生程度 やや多い
- 3 注意報発表の根拠

- (1) 新城市に設置した予察灯における、5月第1半旬から第5半旬までの誘殺状況は、チャバネアオカメムシで38頭（平年27頭、前年58頭）と過去10年で3番目に多く、ツヤアオカメムシで64頭（平年27頭、前年28頭）と過去10年で2番目に多い（図1）。
- (2) フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの4月第6半旬から5月第5半旬までの総誘殺数は、幸田町で81頭（平年31頭、前々年71頭）と過去9年で2番目に多い（前年は一部期間が欠測）（図2）。
- (3) 県内の複数の果樹園で既にチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシの飛来を確認している。
- (4) 名古屋地方気象台5月28日発表の1か月予報では気温は高い見込みで、今後果樹カメムシ類の果樹園への飛来増加に伴う被害の発生が予想される。

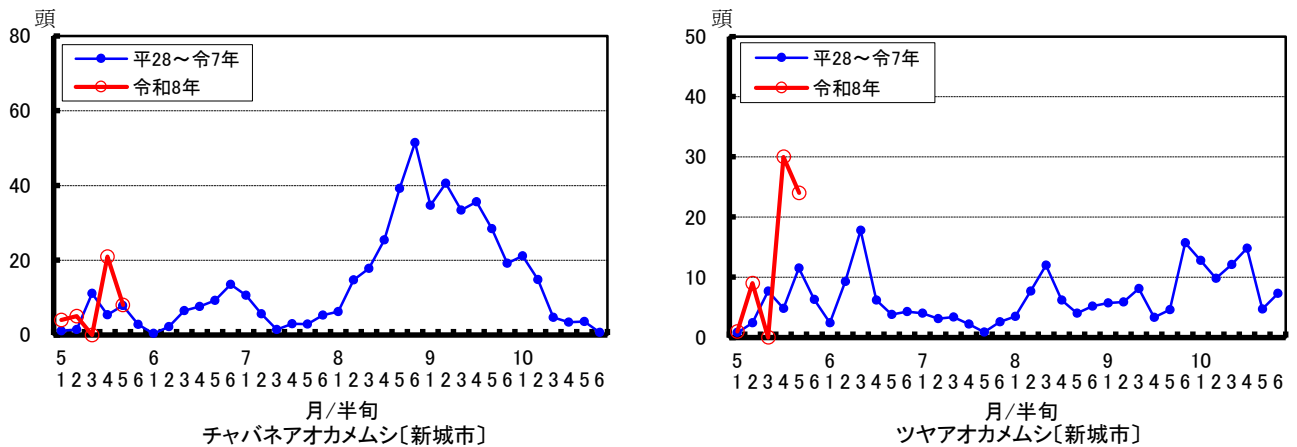


図1 予察灯における果樹カメムシ類の誘殺状況

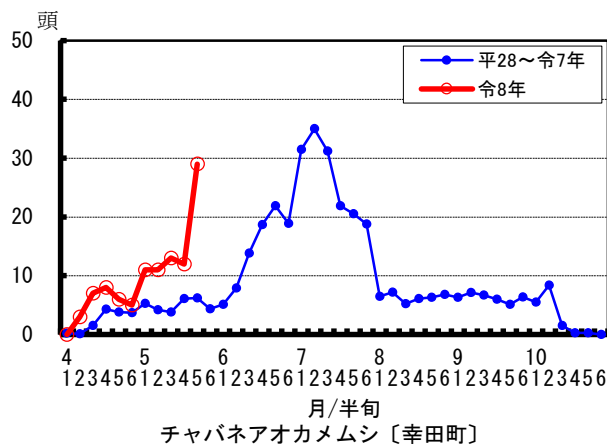


図2 フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの誘殺状況

#### 4 防除対策

- (1) カメムシ類は、気温が高く風が弱い夜に行動が活発になり、長距離移動するようになる。そのため、平坦部の果樹園に突然飛来したり、山沿いの果樹園で飛来が急増したりするので、園内をよく見回り、成虫の飛来状況を確認する。
- (2) カメムシ類は局地的に飛来して、集中して加害する傾向がある。また、園地間差が大きいため、過去にカメムシ類の被害が多かった園では特に注意する。
- (3) 台風等による強風が発生した場合、突然、果樹園へ多数飛来する可能性があるため注意する。
- (4) 飛来を確認したら、ネオニコチノイド剤もしくは合成ピレスロイド剤など各作物で登録のある薬剤で防除する。なお、合成ピレスロイド剤を連続使用すると天敵への悪影響が大きいため注意する。

参考：農林水産省農薬登録情報提供システム (<https://pesticide.maff.go.jp>)

- (5) モモ、ナシ、ブドウなどで袋がけを行う場合は、なるべく早く行う。

#### 5 連絡先

農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室

電話: 0561-41-9513